

- の・くらし
- ～学び合い、考えを広げ深める子ども～
- (4) 学習指導改善調査研究事業  
7月実施（4年生以上の国語、算数）
- (5) 刊行物の発行及び助成
- ア 指定研究会の「研究紀要」刊行  
イ 機関誌「研究集録 No.44」刊行  
ウ 各郡市小教研の「研究紀要」等刊行助成
- (6) 各種会議の開催
- ア 評議員会：年2回（6月、2月）  
イ 理事会：年10回（10月と2月を除き毎月1回）  
ウ 研究部会：必要に応じて随時  
エ 研究集録編集委員会：年6回  
オ 研究推進委員会：年7回（予定）

コ ラ ム



学びのナビゲーション

小千谷市立小千谷小学校 山田 裕 信

自然体験教室で、ウォークラリーを楽しんだことがある。

子どもたちは一人一人が冒険家となって、必要な地点を通過するルートをグループの仲間と相談し合い、選択し、わくわくしながら目的に向かって未知の山野をかけまわっていた。

この活動で、子どもたちに与えられたのは1枚の地図である。スタートとゴール、複数の道筋、池や樹木、危険な箇所等、必要な情報が見取れるように分かりやすく描かれている。また、近道ができる橋、周りを見渡して位置を確認できる見晴台、休憩できる東屋など、ラリーに活用できるアイテムも明示されている。

ところで、私たちの授業ではどうだろうか。

未知の学びのフィールドに挑戦していく子どもたちに、ウォークラリーの地図のように、「学びの目的・目標や内容」「学びの過程」「ここで活用する知識・経験等の学んだ力」などが見えるようにした、いわば「学習鳥瞰図」のようなものを明示してきただろうか。教師が、「指導計画」を指導案の中だけに閉じこめておくのではなく、「学びのナビゲーション」として、子どもや保護者に明示するようになると、授業の在り方も変わってくるのではないだろうか。

私の学校では、現在、単元レベルの「学習ナビ教材」の開発に、職員が積極的な論議と実践を積み重ねている。子どもが自らの学びを見通し、思考力・表現力、活用力を働かせる中で、学びの楽しみを実感する「分かる授業」づくりに生かしたい。